

あおらかな豪州を満喫、プレゼン、リポートに追われた1年

人文学部人文コミュニケーション学科4年 田山翔子

この6月までの約1年間、オーストラリアのシドニー工科大学(UTS)に留学しました。印象深かったのは、様々なバックグラウンド(経歴)や文化を持つ人々が混在していることでした。

出発前まで、オーストラリアは白人の国というイメージが強かったのですが、いざ到着するとそれが一変しました。アジア系があまりにも多かったです。留学生だけでなく、移住して国籍を取得している人もいました。

当初は、現地に慣れることができるか心配でした。周りにアジア系の友達がいたことで、文化の違いに苦労することはほとんどありませんでした。日本が好きで日本語もある程度話せる人が多かったことにも驚きました。親日家が多く、遊びに誘われ、困った時には助けてくれ、本当に有難かったです。

前期は Australian Language and Culture Course に所属し、オーストラリアの文化や英語を学びました。日本からの学生がほとんどで、先生方もフレンドリーで付いていけない、



きつい、大変などの思いはしませんでした。強いて言うなら最終課題のレポートとプレゼンテーションが大変だったことでしょうか。

後期は、International Studies という学部に所属しており

ました。そこでは現地の学生と一緒に講義を受けました。先生の話す英語がとても早く、聞き取るのが大変で、何度も講義のビデオを見直しました。毎週、論文や教科書が課題として指定され、合計で 100 ページ以上。ミニテストやディスカッションに備えてこれを読み込み、結構時間を取られ、疲れました。

どの授業もプレゼンテーションがあり、履修した3つの講義のうち2つはグループによるプレゼンでした。これは、仲間と協力して用意したので、それほど大変ではなかったです。それでも、テーマがなかなか決まらず、直前に情報収集に入ったのもあり、本当に焦りました。



後期で一番大変だったのはエッセイです。2000字2本と1000字1本の計3本を書きました。特に、Cultural Globalizationがテーマの長文のエッセイは、何が文化なのか、何がグローバル化なのか、内容がテーマに沿っているのか途中で分からなくなり、混乱しました。

提出期限までに書き終えられるかどうかという焦りがストレスになり、最後の1~2週間は毎日イライラしていました。

期限前に書き上げた時は、達成感と開放感で一杯でした。「これ以上大変な思いをすることはないだろう」、「次、大変なことがあってもきっと耐えられる」と確信しました。毎朝9時から夜10時まで大学に籠って1週間、勉強したことは今となってはいい思い出です。



生活はのんびりしていました。友達と待ち合わせをしても、相手が10~20分遅刻するのは当たり前。時間通りに集まることの方が少なかったです。基本5分前には待ち合わせ場所に到着することにしていましたので、相手がなかなか現れず、長時間待たされました。時間に厳格な日本との文化の違いを感じさせられました。

そんな時間におおらかなオーストラリア人ですが、自分の興味のあることや好きなことには積極的でした。帰国までの3か月、現地の友達とバレーを半月に1回やっていました。約束の時間にコートに着くと、今度は、既に練習を始めていて、驚きました。自分の興味あることなどは優先度が高いようです。「約束の時間だけは守ってよ」と言いたくなりました。

お酒の話題です。現地で知り合った友達からは毎週、誘われ、2~3回に1度の割合で付き合っておりました。皆、お酒にとても強く、弱い私は、途中でギブアップしていました。

アパートで一緒だったオーストラリア人、タイ人の学生達は本当に好きで、前期は、ほぼ毎日、友達を部屋に誘い午後11時過ぎまで騒いでいました。木曜日や金曜日にクラブに出かけ、午前4時頃に部屋に帰ってきて、またそこで友達と飲み始めることがありました。未明に突然、起こされ、うるさくて眠れず、悩まされることが少なくなかったです。

国際的な英語検定試験のIELTSの受験の



前日に、昼から夜 1 時近くまで部屋で、10 人くらいが集まり、パーティをあった時は、本当に辛かった。勉強に集中したくても気が散ってしまい、思い余って大学に避難しましたが、帰宅しても未だ続いており、早く寝たいのになかなか終わらない。

こんな時は、事情を話して静かにしてもらうか場所を変えてもらえばよかったです、楽しんでいるのに邪魔したら悪い、皆の気分を害さないかなと考えて結局何も言えませんでした。

現地で知り合った友達は嫌なことは嫌、やめてほしいことはやめてと周りの人たちにはっきりと伝えます。私は、それができませんでした。こういうところは自分の悪い所だと感じました。



日本でも海外でも、自分の気持をはっきり伝えることはとても重要で、それができないと損をすることが分かりました。相手の気持ちを考えるのも大切ですが、それを考えた

うえで自分の気持をはっきり伝えるよう、自分の性格を変えていきたいと思いました。

留学生活は本当に楽しかった。辛いこと、困ったこともありましたが、皆、親身になって相談に乗り、アドバイスしてくれます。1 年は長いと当初考えておりましたが、終わってみると短く、まだまだ足りないと感じました。

これから留学する方たちには、目標をしっかりと持ち、きちんと計画を立ててほしいです。日本では経験できないことがたくさんあり、社会人になってからではなかなかできません。ぜひ 1 度留学してみて下さい。

(終)

